琉球大学学術リポジトリ

知的障害のある子どもに対する性教育について：理解を促すための効果的な教材・教具の視点から

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学大学院教育学研究科
	公開日: 2021-04-19
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 島内, 梨沙
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48234

知的障害のある子どもに対する性教育について
―理解を促すための効果的な教材・教具の視点から―

島内　梨沙

琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻

１．研究テーマ設定の理由と本研究の目的

特別支援学校における子どもの性的問題は非常に深刻である。原（2010）によると，知的障害児への学校での性教育は，継続的な取り組みや教材等の開発も困難な状態が今日まで続いている。その背景には学習指導要領の中での性教育の位置づけがあいまいなことに加えて，教員や保護者の「寝た子を起こすな」という性教育への消極的な姿勢が存在する。また，知的な発達に障害のある子どもも，第二次性徴の発現は通常の子どもとほとんど変わりのないことが各種調査に報告されている（児嶋他，1996）。しかし，実際に特別支援学校において，性教育が十分に実施されているかは疑問である。

内閣府が 2017 年～2018 年に全国の相談・支援団体を対象に行った調査では，30 歳未満の性被害の事例のうち，障害者が関係する事例は 70 件あり，55％を占めた。嫌と思っても，それを表現したり抵抗したりすることが出来にくいことから，性の被害者となることや，性的欲求の表し方や処理の仕方が分からずに，他者に無理矢理，あるいは無意識のうちに性的な行為を行い加害者になってしまうということもある。

また，性に関する事件の多くは，学校の教師や放課後児童デイサービスの職員，親やきょうだいなどの，身近な人が加害者である場合が多く，こうした現実を踏まえた「予防教育」として，学校でしっかりと性教育を行う必要があると考える。

こうした認識を下に，本研究においては，まず，特別支援学校教員へのインタビュー調査を通して，性教育の実態について明らかにする。その上で，知的障害のある子どもに対して，積極的に性教育を展開していくために重要で具体的な実践課題である，性教育の教材・教具の開発と工夫の視点と方法について，先行（実践）研究と，筆者の授業実践を通して明らかにすることを目的とする。

２．研究方法

特別支援学校で行ったインタビューを踏まえ，学校・子どもの実態，これまで学級で行われた性教育の実践記録を参考にしながら，子どもの理解を促すための効果的な教材・教具はどのようなものであるか，授業実践を通した子どもの変容を見取ることで，検討を進める。

３．研究内容

（１）インタビュー調査

特別支援学校３校に課題発見実習で訪問した際，教師に対し，実践している性教育の具体的な内容と性教育に対する意識や考え方について半構造的インタビューを実施した。その結果明らかになったことは，まず第１に，インタビューを依頼した際に，「体育の先生に聞いて」と言われたことから，教師の中で性教育は，保健・体育教師が行うものという意識があることである。第２に，性教育を研究している教師が職場内にいると，何か問題が起きた際には助言をもらうが，日頃からその教師に性教育について学んでいる訳ではないということである。しかし，第３に，性教育が必要であるという意識は教師全員が持っており，性教育には，保護者との連携が欠かせないと考えていることが明らかになった。

また，こうした教師たちとは対照的に，民間の性教育研究団体に所属し，積極的に性教育に取り組んでいる特別支援学校小学部のＤ教諭にもインタビューを行った。
Ｄ教諭は，現場において性教育が積極的に行われていないことに関して「ほとんどの教師は，性教育は，問題が起きたら行うものであり，問題を起こさないようにするものという考えになっている」「教育課程や教科書に載っていない事により，どう教えたらよいかわからないのではないか」と述べていた。

（２）実践研究

表１は，知的障害のある子どもに授業を行う上でどのような教材・教具が使用されているのか，性教育に関する総合情報誌である，季刊『セクシュアリティ』誌に掲載された実践事例から整理したものである。工藤(2015)によれば，知的障害のある子どもは，物事を抽象化することに困難さを抱えているため，実物（自分が体験する事と隔たりが少ない事）に近い模型教材が必要不可欠であるとされる。その視点を基本にしながら，絵本や動画など視覚的に訴える教材や，模型や友達同士など実際に触れたり，体験を通して感覚に訴えたりする教材が多く活用されていることが特徴として捉えられる。

表１　知的障害のある子どもの性教育に関する教材・教具の分類

No.	主な内容	特別支援学校	特別支援学級	その他
1	性器の洗い方や扱い方，排泄の学習	○ポータブル洋式トイレ・小便器・ペニスの模型【小】	○絵本・移動教室での実践【小】 ○ペニスの模型【中】	○ペニス（ストッキング）・ワギナ（フェルト）・トイレセット【児童デイ】
2	妊婦体験，産道体験	○抱っこひもにアイスノンをつめ，疑似体験【高】	○7ｋｇのエプロン【中】	○布のトンネル（産道）【保・幼】
3	子育て体験	○赤ちゃん人形【小】	○沐浴人形・YouTube（動画）【中】	
4	性交と避妊の学習	○性交の絵を見て学ぶ・コンドームの付け方の動画とペニスの模型【高】	○粘土板で作成した模型 ○コンドーム【中】	
5	交際についての話合い	○公式デート DV 予防の動画【高】	○ワークシートを用い，デート代について考える【中】	○職員による劇・フォークダンス・合コン【施設】 ○性教育の絵本・デートについてのロールビデオ・手作りハンドブック【舎】
6	ふれあい（快の体験）	○サイコロゲーム ○ホットウォーターベット・タオルマッサージ・ホットウォータープール・アロマオイルマッサージ【小】	○ハンドマッサージ【小】 ○読み聞かせ『ぎゅっ』・友達同士で握手，腕組み，抱き合う，頬をつける，頬へのキス【中】	○ホットタオル（マッサージ）【保・幼】 ○サイコロゲーム・フォークダンス【施設】
7	自分について考える 自分史	○赤ちゃんの頃の写真【小】 ○幼い頃の写真【高】	○赤ちゃんの頃について保護者にアンケートを取り，写真を添えてどの児童かクイズを行う・うまれた時の様子やエピソードを聞く【小】 ○絵本『おおきくなるっていうことは』	○絵本『おおきくなるってことは』【施設】
8	プライベートゾーン	○写真絵本『おんなのこってなあに？おとこのこってなあに？』【高】	○産道，ペニス，ワギナの模型を作成・裸の紙人形・プライベートゾーンを隠す洋服選び【小】 ○写真絵本『おんなのこってなあに？おとこのこってなあに？』【小】【中】 ○生徒の体の輪郭を写し取って切り取り，胸や外性器など，体の名前シールを貼る・水着を作りプライベートゾーンを隠す・性教育ビデオ「おとこのこ　おんなのこ」【中】	○絵を用い，性器と名称を確認・パンツ，ブラジャーの作成・からだうた【児童デイ】
9	赤ちゃんが出来るまで	○動画，図鑑，ペープサート，人形，粘土，エコー写真【高】 ○性器が結合している図	精子と卵子についての顕微鏡の写真・紙芝居『いのちのはじまり』・受精を視覚化（紙に針で穴をあける【小】	
10	生命の誕生について	○教員の出産ビデオ・子宮内体験・お腹の中の赤ちゃんの教員劇・赤ちゃん人形を抱く【小】	出産動画・卵の写真クイズ・ヤゴの飼育・赤ちゃん人形・エコー写真・妊婦さんや赤ちゃんがいる人をゲストに呼び，交流【小】	

		○妊婦さんのゲスト講話【高】 ○ビデオ『うまれるよ』・等身大の人形【高・専】 ○エコー写真・絵本『セックスの絵本』		
11	第二次性徴	○絵本『おちんちんの話』スージー＆フレッド人形【高】	男女の裸の絵に下着や洋服や体のパーツをつける【中】	○『男の子のからだの絵本』【施設】
12	その他	○虹の輪（パーソナルスペース） ○恋愛ドラマ作り・保護者からのアンケート・おしゃれ体験・性感染症について（挿絵つきのプリントと図）【高】 ○教科書『ひとりでふたりでみんなと』	○保護者の声を盛り込んだ教科書・性被害にあった方々のパフォーマンス動画・人形を使って TPO に合わせた行動練習【中】	○クラス通信（保護者への呼びかけ）【幼・保】 ○等身大の模型・ＶＲの動画作成（マスターベーションの擬似体験）【施設】

“人間と性”教育研究協議会，「季刊　セクシュアリティ」，『エイデル研究所』
No，３，５，17, 26, 53, 63, 68, 69, 71, 73, 74, 76，78, 80, 81, 84, 87, 88, 89, 91, 94, 95, 96, 98　より作成

（３）授業実践

①**期間**　2020 年９月７日から９月 18 日

②**対象者**　県立Ａ特別支援学校　中学部３年生Ａ．Ｂ課程（７名）

③**実態把握**

本学級は男子２名，女子５名の計７名で構成されている。他者と接近し過ぎる男子生徒や，着替えの際に配慮の必要な女子生徒がおり，担任教師は指導課題と捉える実態があった。このような現状から，「パーソナルスペース」に関しての授業を行うことにした。

④**授業内容**

・**題材名**　自分のパーソナルスペースを知ろう

・**目標**

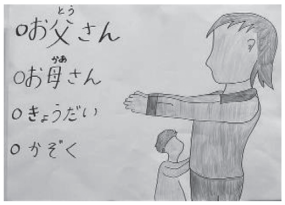
○学習活動に参加することが出来る。

○パーソナルスペースについて理解することができる。

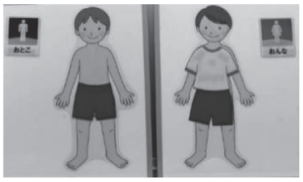
○自分のパーソナルスペースが分かる。

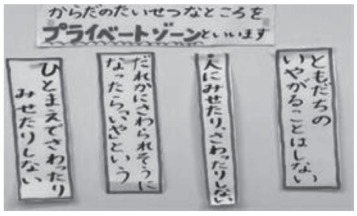
・**教具**　ビニール紐・適切な距離を示した図・プライベートゾーンを表す人体の図・ルールが書かれた帯

・**本時の流れ**

導入 **（５分）**	①事前授業（10 分間の授業）の確認を行う。“ソーシャルディスタンス”の言葉の意味を振り返り，ビニール紐を使って，実際の距離（２ｍ）がどのくらいであったか確認をする。
展開 **（35 分）**	②コロナウイルスが流行していなくても，距離を保つことは必要であることを伝え，考えさせる。⇒知らない人が急に近づいてきたら，どう感じるか，生徒の気持ちを確認する。 ③人と人との適切な距離の保ち方の図を使い，距離の保ち方のデモンストレーションを行う。（教師） ④自分の腕を使い，伸ばしたり曲げたりして，関係性によって変わる距離の保ち方を練習する。（教師と生徒，生徒同士で行う） ⑤パーソナルスペースは，状況や相手によって変わることを教える。 

⑥「プライベートゾーン」はどの部分を指すのか,図を使って確認する。
⑦プライベートゾーンのルールを確認する。





⑧本時の授業の振り返り,大切なことを確認する。

（４）授業実践の成果と課題

本授業では，パーソナルスペースの意味を生徒に理解させ，距離をしっかりと確認し，適切な距離が取れるよう，日常生活に活かすことのできる授業を意図していた。理解を促すために生徒自身の腕を活用したが，そこに留まり，それ以外での距離の取り方を確認できず，日常生活に活かせるような学習にできなかった。また,プライベートゾーンに関しても,「してはいけないこと」のルールは確認できたが,「なぜしてはいけないのか」,「したらどのような気持ちになるか」を考えさせ，深めるまではできず,一方的に教え込む授業となってしまった。

学級担任が気にしていた他者と接する距離が近い男子生徒に関しては，授業を受けた直後は話す際に距離を気にしている様子が見られたが，その後は再び近くで話す場面が見られたことから，行動変容に結びつくような学習にはなっていなかったと考えられる。また，授業を行う上で，性器の名称については学校の実践環境上使用が制限されたこともあり，プライベートゾーンについて十分に理解できるような展開ができなかった。

４．今後の課題

これまでの研究内容を踏まえ，２月に行われる課題発見実習では，生徒の実態から導かれる性教育の内容の理解に向けて，どのような教材・教具が効果的であるか，授業実践を通して考察する。その際,教材・教具，その選択の妥当性を，授業を通した生徒の変容で見取るために，授業前後での気持ちや行動の変化について観察，記録し，分析する。生徒の実態によって可能であれば，生徒自身へのアンケート調査を行い，生徒が自分の変容をどのように捉え，学んだことをどのように日常生活に活かせるようにしているかを捉えたい。更に，引き続き学校現場で性教育を行っている教師にインタビューを行い,学校現場の実態把握を行うと共に，性教育実践の課題を明確にし，本研究に繋ぎたい。

引用文献

原恵美子，2010,「知的障害児に対する特別支援学校における性教育実施と，教諭と保護者の意識」『治療教育学研究』30:61-69.

児嶋芳朗・越野和之・大久保哲夫，1996,「知的障害児の性教育に関する－考察－養護学校全国調査より－」『奈良教育大学紀要.人文・社会科学』45:201-217.

工藤恭子・笹木葉子・村田亜紀子，2015,「知的障害児の性教育における効果的な教材開発の研究－第１報　月経血モデルの制作を試みて－」『北海道文教大学研究紀要』39:11-18.

西日本新聞，2019,「泣き寝入りも…障害者への性暴力の実態「人間として扱われていない」30 歳未満の被害の半数超」『西日本新聞デジタル』(https://www.nishinippon.co.jp/item/n/511765/閲覧日：2020 年 11 月 13 日)